

ASICS 通信

56th Term

2009.4.1—2010.3.31



証券コード：7936

パリマラソン 2010

アシックスの軸足 — 社長メッセージ —

グローバルレベルでランニングブランドのさらなる強化を図り、持続的な成長と企業価値の向上に努めています。

為替の変動により海外事業の収益が円換算で大きく減少

2010年3月期（第56期）の連結業績は、売上高2,243億円、営業利益175億円、当期純利益83億円と前期比で減収減益となりました。厳しい経営環境のなかでも海外事業は成長力を取り戻し、期後半は受注が回復を見せてきましたが、国内事業が低迷したことに加え、為替の変動により海外事業の収益が円換算で大きく減少したことが、連結業績を押し下げる要因となりました。

地域別に見ますと、各地域とも為替換算の影響を受ける結果となりました。

まずアメリカおよびブラジルにおいては、ランニングシューズが引き続き好調に推移したものの、為替換算レートの影響により、売上高は前年同期間比0.2%増（前年度の為替換算レートを適用した場合は11.1%増）にとどまっています。

ヨーロッパは、ランニングシューズが好

調だったものの、為替換算レートの影響とスポーツスタイルシューズが低調であったことにより、売上高は前年同期間比13.3%減（前年度の為替換算レートを適用した場合1.9%増）となりました。

アジア・パシフィックは、特にオーストラリアでランニングシューズが好調でしたが、為替換算レートの影響により、売上高は前年同期間比14.2%減となりました。また、2010年3月より経済成長の著しいインド市場にも本格参入を果たしました。

国内事業の活性化がさらなる成長の鍵

景気の回復にともなって海外が成長力を取り戻してきているだけに、国内事業の活性化が大きな課題です。国内消費は確かに低迷していますが、そうした外部要因だけではなく、アシックス製品の魅力を十分に訴求できなかったことも国内の売上が伸び悩んでいる要因です。



代表取締役社長 尾山 基

当社グループは、スポーツ工学研究所、デザインセンターとの連携により、機能性と視覚的な美しさを高いレベルで融合させた付加価値の高い製品づくりを行っていますので、製品の優秀性では他社には負けていないと自負しています。直営店ならびにフランチャイズ店やショップインショップといった自主的に管理できる売場

を拡大し、メーカーとしての商品企画に迅速に対応する売場づくりに取り組むことで、課題を解決していきます。

企業価値の向上を支える ブランド価値を強化

当社グループは2008年1月から世界統一ビジュアルによるブランド広告を展開する一方、ニューヨークシティマラソンやパリマラソンなど都市型市民マラソンのサポートを積極的に行ってきました。こうした取り組みによって海外でのブランド認知度が大幅に向上しています。加えて、世界各地のお客様の声を聞きながら、地域の特性に合ったものづくりを続けたことが、当社グループの海外売上高比率58.4%という実績につながっています。今後は、ランニング人口が急速に増加している東南アジアにおいても、シンガポールマラソンなどの都市型マラソンのサポートを中心とした広告宣伝活動を積極的に行い、グローバルブランドとしてさらなる拡大を図っていきます。

加えて、テレビコマーシャルなどの効率的な広告宣伝や、東京マラソンをはじめとするイベント支援、2009年7月に一般公開した「アシックススポーツミュージアム」



アシックススポーツミュージアム

の活用などを通じて、国内においてもブランド認知度の向上を実現し、企業価値を高めていきます。

2010年の重点方針

当社グループは現在、全社戦略「アシックス・チャレンジ・プラン(ACP)」に基づき事業の強化・拡大に努めておりますが、昨今の経済情勢や不安定な為替動向などを勘案し、数値目標とした連結売上高3,000億円の達成年度を2012年3月期以降といたしました。

商品戦略では、強みを持つシューズについて、当社グループは引き続き他社の追随を許さない高付加価値製品を継続的に創出する一方、アパレルについてもスポーツカジュアルに商品層を広げていくことで、トータルでの成長を目指します。

当社グループは、こうした中期的な経営目標を実現するために、本年の「重点方針」を発表しました。

第1は「原点回帰」です。創業の原点である「ものづくり」に立ち戻り、高品質・高性能・高デザイン性を持った付加価値の高い製品・サービスを創出していきます。第2は「生産性の向上」です。商品企画から生産、物流、販売に至るまですべての工程を徹底的に検証して最適なサプライチェーンを構築します。第3は「ガバナンスと人材強化」です。内部統制をベースとしたガバナンス(企業統治)を確立するとともに、「世界最適」での組織体制の確立、人材の育成に努めます。

世界各国で事業を展開するグローバル企業として、当社グループはこれからも海外事業のさらなる発展と国内事業の活性化を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。株主の皆様には、一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長

尾山 基



世界統一ビジュアルによる
2010年のブランド広告

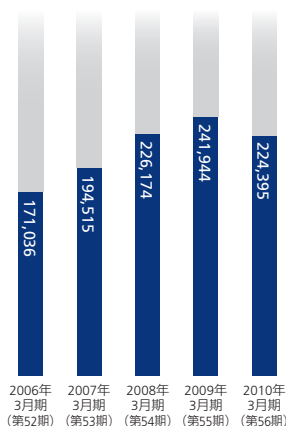


東京マラソン 2010

© 東京マラソン事務局

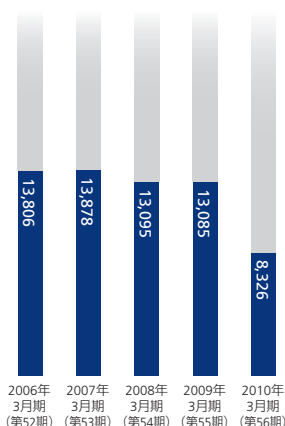
売上高

(単位：百万円)



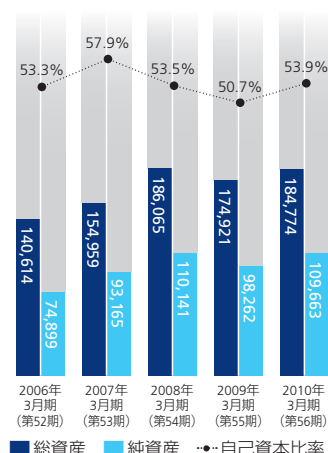
当期純利益

(単位：百万円)



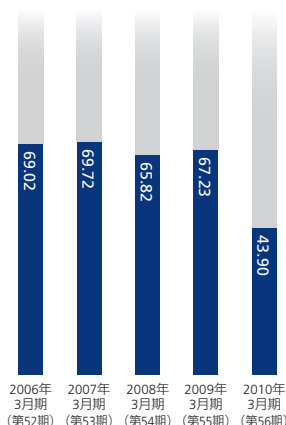
総資産・純資産・自己資本比率

(単位：百万円)



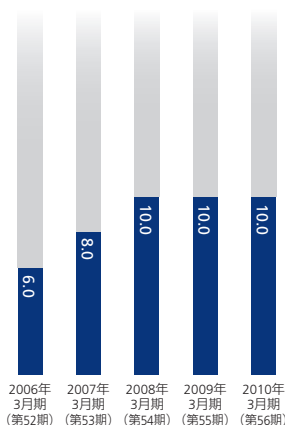
1株当たり当期純利益

(単位：円)



1株当たり配当金

(単位：円)



POINT 解説

売上高

当連結会計年度における売上高は2,243億9千5百万円と前年同期間比7.3%の減収でした。このうち国内売上高は、ランニングシューズおよびランニングウエアは好調に推移しましたが、ウォーキングシューズおよびアスレチックウエアが低調でしたので932億9千2百万円と前年同期間比5.4%の減収でした。海外売上高は、ランニングシューズおよびランニングウエアは好調に推移しましたが、為替換算レートの影響と欧州でスポーツスタイルシューズが低調であったことにより、1,311億3百万円と前年同期間比8.6%の減収でした。

当期純利益

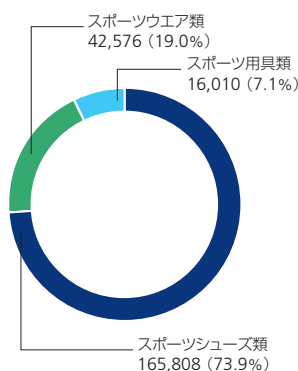
売上高の減少と海外の原価率の上昇に加え、過年度法人税等の計上などにより83億2千6百万円と前年同期間比36.4%の減益となりました。なお、過年度法人税等は、当社とオーストラリアの子会社との間の2005年3月期から2008年3月期の4年間の取引に関する移転価格税制に基づく更正処分による追徴税額であります。

総資産・純資産

総資産1,847億7千4百万円(前年同期比5.6%増)、純資産の部合計1,096億6千3百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

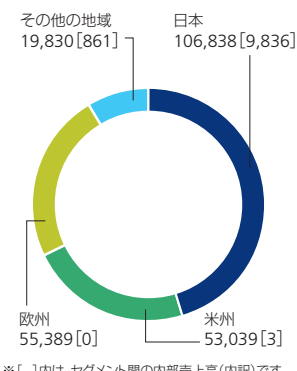
製品別売上高

(単位：百万円)



所在地別売上高

(単位：百万円)



※[]内は、セグメント間の内部売上高(内訳)です。

通期連結業績予想

(単位：百万円)

	2010年3月期 第56期(実績)	2011年3月期 第57期(予想)	前期比増減
売上高	224,395	231,000	2.9%
営業利益	17,582	20,500	16.6%
経常利益	18,230	20,500	12.5%
当期純利益	8,326	11,500	38.1%
1株当たり当期純利益 (単位：円)	43.90	60.64	—



オニツカタイガー
「モンテボカラ」
靴ひもの結び方を
自分流にアレンジできる
アウトドアティストのスニーカー



「ゲルエストップ」
片山晋呉プロの
シューズと同じ仕様の
ゴルフシューズ



「ディーエスライト4ジュニア」
足にかかる負担を軽減し、
走りやすいジュニア向けの
サッカー用スパイクシューズ



「ランニングTシャツ」
グラフィックデザイナー、
アラン・チャン氏が手がけた
グラフィックデザイン入り
ランニングTシャツ



「ビーシーウォーカー」
背筋が伸びた美しい歩行姿勢を
導くウォーキングシューズ

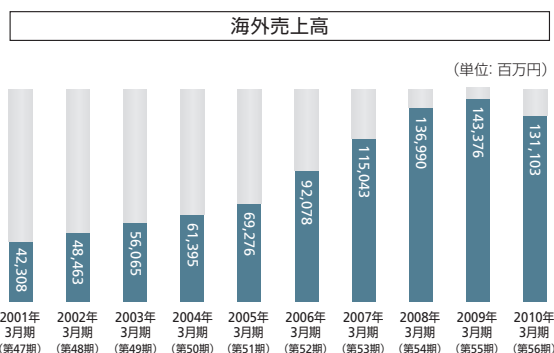
世界市場で積極的に事業を拡大

アシックスグループは、グローバルでランニングブランドの強化を図っています。創業以来培われた確かな技術力から生み出される商品は世界中のランナーから高い評価を受け、日本、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアなどの参入する主要各国でトップブランドとなっています。

近年は、アジア、東欧、南米など経済成長の続く新興市場での展開を進めており、2010年3月にはインドに本格参入しました。

また、過去に競技用シューズだったものを街でも履けるよう現代風にアレンジしたスポーツファッション市場向けブランドの「オニツカタイガー」も、日本発のグローバルブランドとして国内外の若者を中心に人気を集めており、積極的に出店を進めています。

健康志向によるスポーツへの関心の高まりを追い風に、アシックスグループは引き続き世界市場での事業拡大に努めます。



「Japan's Best Global Brands 2010」で22位にランクイン

世界的なブランドコンサルティング会社のインターブランド社が発表した「Japan's Best Global Brands 2010」にて、当社は2年連続でのトップ30入りを果たしました。また、厳しい経営環境下で、多くの日本企業がランキングやポイントを下すなか、世界的なマラソンブームや環境、健康というニーズを捉え、また積極的なグローバルブランド戦略により、当社は昨年の26位から22位へと躍進しました。

今後は、世界における「Best Global Brands」のトップ100に選ばれるように、引き続きブランド価値の向上に努めていきます。



2年連続で
授与された盾

新たにオープンしたランニング専門店



アシックスストアニューヨーク、アメリカ(2009年10月)



アシックスストア台北、台湾(2010年2月)

新たにオープンした「オニツカタイガー」の店舗



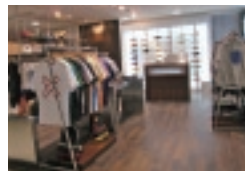
ゲートウェイ店、香港
(2009年10月)



シャングリラ店、フィリピン
(2010年1月)



東城路店、韓国
(2010年2月)



ロッテ明洞店、韓国
(2010年3月)

第3回製品安全対策優良企業表彰で 商務流通審議官賞を受賞

経済産業省が表彰する「第3回製品安全対策優良企業表彰」の「大企業製造・輸入事業者部門」において商務流通審議官賞を受賞しました。

2007年度の第1回にも銀賞(現・商務流通審議官賞)を受賞しており、今回で2回目の受賞となりました。

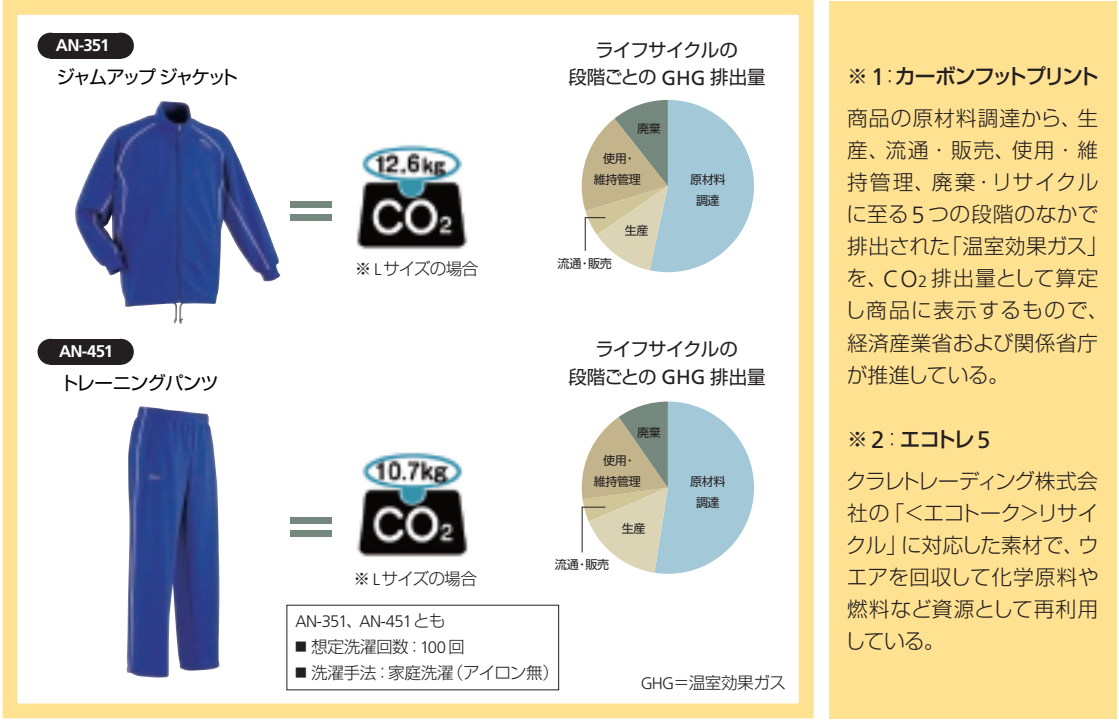
当社では経営理念において「すべてのお客様に価値ある製品、サービスを提供する」を1番目に置き、製品安全、品質向上に努めています。今後も積極的な取り組みを強化し、スポーツ用品業界での製品安全品質の価値向上に取り組んでいきます。



学校体育衣料で国内初の「カーボンフットプリント」マークを表示
＜環境保全への取り組み＞

当社は、温室効果ガス排出量削減の取り組みの一環として、2011年度から学校に納入する中高校生向けトレーニングウェア2品番について、学校体育衣料に国内で初めて「カーボンフットプリント」※1マークを表示します。対象商品は、「ジャムアップジャケット」と「トレーニングパンツ」で、環境にやさしい「エコトレ5」※2の素材を採用しています。

今後も、こうした取り組みを通して、CO₂排出量の多い工程や削減可能な工程などを把握し、CO₂排出量削減の取り組みをさらに進め、低炭素社会の実現に貢献できるよう引き続き努めていきます。



アシックスのお店紹介——

歩人館では、靴に悩みを抱えるお客様をお待ちしています。



歩人館は、全国で46店舗を展開するアシックスグループのウォーキングショップです。歩人館シューアドバイザーがお客様の足を徹底的に計測、靴選びの7つのポイントに沿って靴選びのお手伝いをします。また、より快適な履き心地を生み出すオリジナル中敷の作製も行います。



※詳しくは、歩人館 Web サイトをご覧ください。
<http://www.asics.co.jp/walking/hojinkan>

自動計測機（一部手計測の店舗もございます）

ご自身の足の正確なサイズや特徴を知ることが
靴選びの第一歩。

7つのポイント

1. 甲がしっかりおさえられているか。
2. 指の付け根（最も幅の広い部分）がしっかりフィットしているか。
3. つま先にゆとりがあるか（約10ミリ）。
4. 土踏まずの高さと位置。
5. かかとがぴったりに合っているか。
6. くるぶしがあたらないか。
7. かかとが抜けないか。



会社の概況

会社概要 (2010年3月31日現在)

社名	株式会社アシックス
創業	昭和24年9月1日
資本金	239億7千2百万円
事業内容	各種スポーツ用品および 各種レジャー用品の製造および販売
本社所在地	〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL:(078)303-2231 FAX:(078)303-2241
従業員数	5,357名(連結)

役員 (2010年6月18日現在)

代表取締役会長	和田 清 美	橋 本 幸 亮
代表取締役社長	尾 山 基	長 谷 義 昭
取締役 常務執行役員	清 水 裕一郎 池 崎 俊 郎	稗 田 甲 二 土 方 政 雄
取締役執行役員	織 田 信 雄 千 原 芳 雄 松 尾 和 人 佐 野 俊 之	平 本 博 渡 辺 博 司 黒 崎 鉄 雄 西 野 修 一
執行役員 (五十音順)	池 田 新 井 上 忠 史 加 藤 克 巳	常勤社外監査役 田 中 秀 明 社外監査役 山 上 和 則 三 原 秀 章

株式の状況 (2010年3月31日現在)

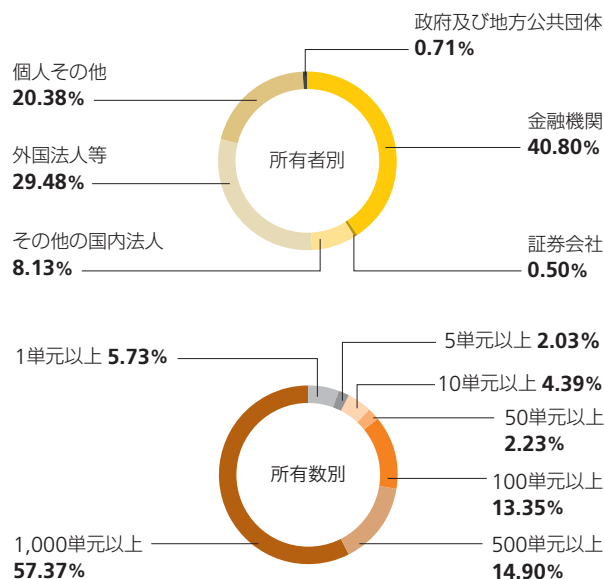
株式状況

発行可能株式総数	790,000,000 株
発行済株式の総数	199,962,991 株 (うち自己株式 10,331,996 株)
株主数	12,921 名

大株主 (上位 10 名)

(注) 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,656	5.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,521	5.0
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	7,858	4.1
株式会社三井住友銀行	6,607	3.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	6,471	3.4
日本生命保険相互会社	6,309	3.3
株式会社みずほコーポレート銀行	5,068	2.7
株式会社みなと銀行	4,208	2.2
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	3,346	1.8
サジヤツブ	2,967	1.6



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	1,000株
公告方法	下記のホームページに掲載いたします。 http://www.asics.co.jp/ir/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート(英文)など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ(<http://www.asics.co.jp/ir/>)に掲載しています。

株主名簿管理人および 特別口座 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座に関する お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 全国本支店

※ 住所変更等の事務手続きは、お取引の証券会社等(口座管理機関)にてお手続きください。

